

2024 7

ナイル

現代短歌ナイル

【今月の歌】

河内圭子 荒牧建二

酒本郁也 庄野主真

ナイルキャンパス／五代目神田伯梅

芙貴子ワールド／松本芙貴子

偶然の糸を遊ぶ【1】

5月号作品批評／宮本史一(心の花)

尊敬することとナルシズム／本田じゅん

現代文 知識ノート【6】／二方久文

NILE CAMPUS

301

伯梅閑話 —— 四柱推命 ——

小村井敏子（五代目神田伯梅）

以前、占いに凝っていたことがあった。凝ったと言っても、書店で手軽に手に入る本を買っていた。その中に、四柱推命の本があった。それで占うと、誤解される運勢だという。今、振りかえるとまさしくそうだ。

伯龍が亡くなって気が付くと髪の毛が短くなっていた。元々、それほど長くなる髪ではなかったが、日本髪を結わせたくて、母が切らせなかった髪だ。中学生の時に切りたと言うと子供は床屋だと刈り上げにされた。その後、大学院の頃には、世界のおばさん頭、まとめて団子にしていた。父譲りの癖っ毛の髪がふくらむのを抑えるためだ。その後、二十歳代後半に一度美容院でカットしたきり、自分でも髪を切ったことはなかった。それが、団子を作りにくくなるほど短くなっていた。それで、団子をあきらめた。パーマネットをかけたこともない。父譲りの癖っ毛の癖が強くなって、パーマをかけたような髪になっていた。整髪料でふわっと広がる髪をおさえた。

「どこ（の美容院）でやったの？きれいなね」と言われた。いちいち、「天然パーマです。髪の毛はカットしていません」と言い歩くわけにはいかない。髪が短くなったのは、伸びるスピードより、髪が抜ける速さの方が勝ったからだ。知らない方から見れば、「夫が亡くなったら、途端にパーマだ」と、思われていることだろう。

伯龍の養子、千代夫人の息子、八代目一龍齋貞山が講談師になったときから、伯龍を聞いている。伯龍ともう一人の客と私で、独演会のあとの飲み会のあとに飲んでいたこともあった。伯龍の妻となったとき、六十三歳と四十歳。世間によくある浮気の結果と思うだろうが、残念ながら、浮気する男ではない。（伯龍に）女がいる様子は見たことがない」と、七代目立川談志師匠から、上野のうなぎ屋で直接聞いた。一度だけ、彼女だと言って女性を連れて来たことがあったが、それらしい雰囲気ではなかった。